

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

						福山市立		広瀬小		学校					
年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	児童が自分の課題解決に向けて主体的に学び、個々の学力を定着させる。	★	継続	①児童に基礎的・基本的技能を活用させ、個々の学力を伸ばす。	○個々の学習の目標を設定したり、個人やグループ、異学年で学び合ったりしながら、自分に合った学習方法で取り組ませる。	○学びファイルを用いて個々の学習状況を把握し、成長を見取る取組を100%にする。 ○児童アンケートにより、自己の成長が実感できた児童を90%以上にする。	○自己の成長を見取り保護者に説明するための資料として学びファイルを活用した。 ○行事や学年末に個々の取組の振り返り、実践に活かすことができた。(96.8%)	3	3	○学びファイルをもとに、自分の学びの成果を振り返り、見直しをし、次の学習方法を改善へとつなげていく。 ○学びファイルの活かし方を交流し工夫を加えていく。	○個々の学びファイルから自分で学習課題を決めて取り組もうとする児童が増えた。自己の成長が実感できた児童は81.1%(7・12月平均)であったが、個々の学力を伸ばすことは十分ではなかった。	3	3	3	○学びファイルの取組を継続しながら、一人一人の成長が単元や学期、年間を通して理解できることで、自信を持たせ個々の学力を伸ばすことに繋げる。
				②自分にあった目標を設定させ、自分なりの取組方で解決していく主体性を育成する。	○学習内容の決定や単元のデザインを考え、児童が計画を立てた学びを通して個々の目標を評価する。	○児童アンケートにより、計画を立てて学ぶことが楽しい児童(96.8%) ○マイスタディプランをもとに、学習計画を立て自分のペースで学習に取り組む児童が増えてきた。	○学習課題に対して、自分の考えを書くことで整理したり、友達に説明することで確かめたりすることで、対話を通して内容を深めていく授業を進めていく。	3	4	○マイスタディプランを通して、計画を立てて学ぶことが楽しい児童は77.3%(7・12月平均)であった。学習を通して内容を深めていく授業を十分に生かすことができなかった。	3	3	3	○今年度の取組を中学校と見直し、単元や学期を通して個々の学習目標を明確に示させ、課題解決に向けた学び方を選び決めて柔軟に取り組むことが必要である。	
2	目標達成に向けて他者と協力し、自分とのかかわりを大切にする心を育成する。	★	継続	③課題解決に向けて協働し、互いを認め合いながら学び、肯定的な評価ができる児童を育成する。	○ひろせDASH!村プロジェクトに取組み、課題解決に向けて挑戦し認め合いながら学びを深める。	○児童アンケートにより、友達と協力して課題解決できた実感している児童を90%以上にする。	○子どもたちで教え合ったり、意見を出し合ったりしながら解決に取り組むことができたが、自分の意見を通そうと、グループで解決できない場面が見られた。 ○協力して課題解決できたと感じる児童は93.4%であった。	3	3	○全体報告の場を児童生徒に任せ、リーダー育成に取り組み。 ○良いところや共通点を見つけ、新しい考えをつくるという方法を子どもに提示する。	○学習の進行を児童生徒に任せ、見直しを持たせることで、各グループの協働の学びが深まる活動となった。アンケートの肯定的評価は91%(7・12月平均)であった。	3	4	4	○次年度、広瀬タイムでの活動を各1サイクル(2ヶ月)毎の計画を立てゴールを共有し、課題解決に向けた協働へと継続させていく。
3	地域・保護者から信頼される広瀬小学校教育を推進する。		継続	④地域・保護者へ積極的に学校の情報を発信する。	○保護者や地域との積極的な連携、学校や中学校区の取組を情報発信する。(各種より、HP、Google classroomでの発信)	○保護者学校満足度の肯定的評価90%以上にする。	○毎日の学校だよりの発行、HP等への掲載により児童の様子や学校の取組を発信した。 ○コロナ禍により懇談等十分な連携が取れないこともあり保護者学校満足度の肯定的評価は79.3%であった。	2	2	○学校と保護者が対話できる全体懇談会を設定し、積極的な連携を図っていく。 ○動画を閲覧できるようにするなど、工夫した情報発信を行う。	○12月末の保護者学校満足度の肯定的評価は86.2%(7・12月平均)であった。2学期にできる限り行事を行い、保護者へ現状の説明をていねいに伝えた。	3	3	3	○情報発信は積極的に行っていたが、コロナ禍での学校状況を十分に伝えきれていなかったことが課題であり、次年度は保護者や地域とのコミュニケーション、対話の方策を考える。
3	教職員が心身ともに健康で、教育活動に意義や達成感を感じることが出来る。	★	継続	⑤業務内容を精選しながら仕事に意義とやりがいを感じ、計画的に業務を遂行する力を育成する。	○会議等の精選・統括や教員相互のOJTを通して、人材を育成し業務改善を進める。	○時間外勤務時間月45時間を超える職員を0にする。	○教材研究タイムの設定や授業に直結する研修を企画・運営するなど、計画的に業務を遂行に努めた。 ○時間外勤務時間月45時間を超える職員は居なかった。	3	4	○各分掌で主任を中心にショート会議や研修を設定するなど組織的な連携を進めることにより、業務改善を進めていく。	○職員1月末までの月45時間以内の達成率は82%であった。職場内での意識が高まり、OJTを通した職員同士の関わりやICT活用等、業務改善に向けた取り組みに繋がった。	3	4	3	○次年度は広瀬学園になり、児童生徒の姿容によって意義や達成感を感じることが出来る職場づくりを行い、組織的な業務遂行を習慣化し「チーム学校」としての向上を目指す。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。